

〈社会教育関係課抜粋〉

P2～3頁番号変更追記あり

新潟市教育ビジョン第4期実施計画

これからの社会をたくましく生き抜く力の育成

～学・社・民の融合による人づくり，地域づくり，学校づくり～

令和6年度 進捗状況最終評価
(令和2年度～令和6年度評価)

令和7年6月9日

新潟市教育ビジョン推進委員会

※社会教育関係課抜粋のため
資料頁を欄外のとおり変更しています

新潟市教育ビジョン第4期実施計画 令和6年度進捗状況最終評価 施策一覧

基本施策(12施策)	施 策 (34施策)			施策を構成する事業の進捗状況平均	担 当 課 (◆とりまとめ課、◇関係課、※情報提供課)										資料頁			
	網掛…【視点1】～【視点5】に該当する施策				教育総務	学務	施設	保健給食	生涯学習推進課	学校人事	教育課	学校支援	特別支援	中央図書館		生涯学習センター	生涯学習センター	生涯学習センター
1 豊かな学力の向上	1-1	資力・能力を育む授業づくりの推進	【視点1】	2.4								◆						1
	1-2	学習・読書の習慣・能力を育むキャリア教育の推進	【視点1】	3.0								◆						5
	1-3	実感を伴って学ぶアグリ・スタディ・プログラムの推進		3.0								◆						6
	1-4	読書活動の推進と新聞活用の充実		4.0								◆		◇				7
2 豊かな心と健やかな身体の育成	2-1	いのちの教育・心の教育の推進	【視点4】	3.0								◆						10
	2-2	自立支援と生徒指導の推進	【視点4】	3.6								◆						11
	2-3	体験活動の充実		4.0								◇				◆		13
	2-4	体力づくりの推進		4.0								◆						14
	2-5	健康づくり・食育の推進	【視点4】	2.0				◆										15
	2-6	青少年の健全育成の推進		2.5					◆					◇		◇		17
3 創造性に富み、世界と共に生きる力の育成	3-1	地域学習の充実		4.0								◇				◆		20
	3-2	外国語教育・国際理解教育の充実	【視点1】	3.5								◆						21
	3-3	情報教育の充実とICTを活用した教育の推進	【視点1】	3.8								◆						23
	3-4	社会の変化や新たな課題に対応できる教育の推進		4.0								◆						25
	3-5	帰国・外国人園児児童生徒への教育の推進		2.0								◆						26
4 共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進	4-1	子ども・一人一人のニーズと課題に応じた特別支援教育の推進	【視点4】	3.7									◆					27
5 校種間・学校間連携を生かした特色ある学校園づくり	5-1	就学前から義務教育修了までの一貫した教育の推進		2.7	◆								※					29
6 人権を守り共に支え合う社会の推進	6-1	人権教育・同和教育の推進、男女平等教育の推進		3.7					◇			◆		◇				31
7 家庭教育の充実と子育て支援	7-1	家庭教育・子育て支援の充実	【視点2】	3.0												◆		33
	7-2	乳幼児期からの読書活動推進	【視点2】	4.0											◆			34
8 人生100年時代を見据えた循環型生涯学習の推進	8-1	学び合う各世代への支援	【視点2】	2.6										◇		◆		35
	8-2	学習成果を生かす活動への支援	【視点2】	3.0												◆		37
9 地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進	9-1	地域と共にある学校づくりの推進	【視点3】	3.5					◆									39
	9-2	広報広聴活動の推進		3.0	◆													41
	9-3	地域人材や高等教育機関、企業等との連携の推進		2.8					◆			※		◇		◇	◇	43
10 学びのセーフティネットの構築に向けた取組の推進	10-1	保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進	【視点3】	3.0								◆						45
	10-2	教育の機会均等を図るための取組の推進	【視点4】		◆													46

P6

P8

P9

P11

P12

P14

P15

P16

P18

P19

P21

基本施策(12施策)	施 策 (34施策)			施策を構成する事業の進捗状況平均	担 当 課 (◆とりまとめ課、◇関係課、※情報提供課)											総合教育センター	資料頁
	網掛…【視点1】～【視点5】に該当する施策				教育総務	学務	施設	保健給食	生涯学習推進課	学校人事	教育職員	学校支援	特別支援	中央図書館	生涯学習や中央公民館		
11 学校教育・生涯学習環境の基盤づくり	11-1	学校施設の整備		4.0			◆									47	
	11-2	市民の多様な学習にほた学習環境の整備	【視点4】	2.0									◆	◇		48	
	11-3	学校適正配置に向けた取組			◆											49	
	11-4	市立幼稚園の再編に向けた取組			◆											49	
12 市民に信頼される教育関係職員の育成	12-1	教育関係職員の研修プログラムの充実	【視点5】	3.8					◇							54	
	12-2	教職員への支援体制の充実		3.7						◆	◇	◇				53	
	12-3	信頼される教職員の採用・登用・配置		3.5						◆						56	

● 施策を構成する事業の進捗状況平均分布 (全施策)	評価4… 指標を達成した	22.6%	74.2%	← 事業の進捗状況平均4.0の施策数÷31施策×100
	評価3… 指標概ね達成した	51.6%		← 事業の進捗状況平均3.0以上4.0未満の施策数÷31施策×100
	評価2… 指標を下回った	25.8%		← 事業の進捗状況平均2.0以上3.0未満の施策数÷31施策×100
	評価1… 指標を大きく下回った	0.0%		← 事業の進捗状況平均1.0以上2.0未満の施策数÷31施策×100

● 施策を構成する事業の進捗状況平均分布 (視点1～5)	評価4… 指標を達成した	6.3%	75.0%	← 事業の進捗状況平均4.0の施策数÷16施策×100
	評価3… 指標概ね達成した	68.8%		← 事業の進捗状況平均3.0以上4.0未満の施策数÷16施策×100
	評価2… 指標を下回った	25.0%		← 事業の進捗状況平均2.0以上3.0未満の施策数÷16施策×100
	評価1… 指標を大きく下回った	0.0%		← 事業の進捗状況平均1.0以上2.0未満の施策数÷16施策×100

※各年度分布の合計値が計算時の四捨五入の誤差上、必ずしも100%に達しない場合があります。

● 施策を構成する事業の進捗評価基準	指標目標の評価基準は下記のとおり。なお、()内は、減少指標目標の場合		
	※ 達成率 = 進捗状況値 ÷ 指標目標値 × 100		
	評価4… 指標を達成〔達成率100%以上(100%以下)〕		
	評価3… 指標を概ね達成〔達成率90%以上100%未満(100%超過110%以下)〕		
	評価2… 指標を下回った〔達成率70%以上90%未満(110%超過130%以下)〕		
	評価1… 指標を大きく下回った〔達成率70%未満(130%超過)〕		

● 令和6年度進捗状況の総括	R6年度は、全34施策を実施し、上記「施策を構成する事業の進捗状況平均分布(全施策)」においては、「指標を達成した・概ね達成した」は74.2%(R5:80.7%)であった。また、「施策を構成する事業の進捗状況平均」の項目数においては、R6年度とR5年度と比較し数値が上回っているものは9項目(裏面参照)であった。		
	このほか、「施策を構成する事業の進捗状況平均分布(視点1～5)」では、「指標を達成した・概ね達成した」は75.0%(R4:81.3%)であった。例えば、視点4の「子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進」、視点5「教育関係職員のプログラムの充実」において、昨年度よりも数値が向上し、その取組が進んでいる。		
	なお、今期の進捗状況や最終年度の進捗状況が低かったことについては、新型コロナウイルス感染症拡大のため大きな要因であると考えている。また、R5年度とR6年度の進捗状況を比較した際に0.5ポイント以上下がっている施策の共通の課題として、対象となる市民やボランティアの高齢化や参加者の固定化といったことが挙げられる。		
	今後は、R2～R6年度の5年間実施してきた第4期実施計画の成果と課題を踏まえて、新潟市教育振興基本計画における施策や事業を展開していく必要がある。		

※ 次ページ以降の表記について

・指標目標の設定型

I型:第4期実施計画の5か年分を設定

II型:「前年度を上回る」「前年度の実績を踏まえて毎年度設定」等

III型:数値ではなく文字(文章)で設定

・前年度比の求め方

当該年度進捗状況値÷前年度進捗状況値×100(%) ※減少指標目標の場合の前年度比は、100%に伸率を加減算して表示

・「指標」の表中にある「現状」とは、第4期実施計画策定段階において、指標目標の設定根拠としての現状値を示しています(第4期実施計画本冊の数値を転記)。ただし、指標目標「前年度を上回る」「前年度の実績を踏まえて毎年度設定」等の指標については、R1(令和元年度末時点)の値を網掛けをして示しています。

・指標目標値を変更したもののについては、網掛けをし、以下のように示しています。(R2:11月に承認済)

R2
1.320

・指標自体を変更した取組があります。…基本施策2-2事業「いじめ・不登校対応への支援カウンセラー等活用事業」指標2、3(R3.2月に承認済)

新潟市教育ビジョン第4期実施計画 令和6年度進捗状況最終評価 施策一覧【経年経過】

基本施策(12施策)		施策(34施策)		施策を構成する事業の進捗状況平均				
		網掛け…【視点1】～【視点5】に該当する施策		R2	R3	R4	R5	R6
1	確かな学力の向上	1-1	資質・能力を育む授業づくりの推進【視点1】	3.2	2.8	2.4	2.4	2.4
		1-2	学び続ける資質・能力を育むキャリア教育の推進【視点1】	3.5	3.3	3.3	3.3	3.0
		1-3	実感を伴って学ぶアグリ・スタディ・プログラムの推進		3.0	4.0	3.0	3.0
		1-4	読書活動の推進と新聞活用の充実	4.0	4.0	3.5	3.6	4.0
2	豊かな心と健やかな身体の育成	2-1	いのちの教育・心の教育の推進【視点4】	3.8	3.8	3.8	3.2	3.0
		2-2	自立を促す生徒指導の推進【視点4】	3.8	3.4	3.3	3.4	3.6
		2-3	体験活動の充実	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
		2-4	体力づくりの推進		3.5	3.5	3.5	4.0
		2-5	健康づくり・食育の推進【視点4】	2.7	2.5	2.3	2.0	2.0
		2-6	青少年の健全育成の推進	2.5	2.3	2.5	2.5	2.5
3	創造性に富み、世界と共に生きる力の育成	3-1	地域学習の充実	4.0	4.0	4.0	2.0	4.0
		3-2	外国語教育・国際理解教育の充実【視点1】	4.0	3.7	3.8	3.6	3.5
		3-3	情報教育の充実とICTを活用した教育の推進【視点1】	4.0	3.8	4.0	3.8	3.8
		3-4	社会の変化や新たな課題に対応できる教育の推進	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
		3-5	帰国・外国人園児児童生徒への教育の推進	3.0	4.0	3.0	3.0	2.0
4	共生社会の実現を目指すインクルーシブ教育システムの推進	4-1	子ども一人一人のニーズと課題に対応した特別支援教育の推進【視点4】	3.7	3.3	3.7	3.0	3.7
5	校種間・学校間連携を生かした特色ある学校園づくり	5-1	就学前から義務教育修了までの一貫した教育の推進	4.0	3.5	3.3	3.0	2.7
6	人権を守り共に支え合う社会の推進	6-1	人権教育・同和教育の推進、男女平等教育の推進	3.7	4.0	3.7	3.7	3.7
7	家庭教育の充実と子育て支援	7-1	家庭教育・子育て支援の充実【視点2】	4.0	3.5	3.5	4.0	3.0
		7-2	乳幼児期からの読書活動推進【視点2】	4.0	4.0	4.0	3.5	4.0
8	人生100年時代を見据えた循環型生涯学習の推進	8-1	学び育つ各世代への支援【視点2】	2.6	3.0	3.0	3.2	2.6
		8-2	学習成果を生かす活動への支援【視点2】	3.7	3.3	3.3	3.3	3.0
9	地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進	9-1	地域と共にある学校づくりの推進【視点3】	4.0	3.0	3.5	4.0	3.5
		9-2	広報広聴活動の推進	4.0	4.0	4.0	4.0	3.0
		9-3	地域人材や高等教育機関、企業等との連携の推進	3.5	1.5	1.8	2.8	2.8
10	学びのセーフティネットの構築に向けた取組の推進	10-1	保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進【視点4】	2.5	2.5	2.5	3.5	3.0
		10-2	教育の機会均等を図るための取組の推進【視点4】					
11	学校教育・生涯学習環境の基盤づくり	11-1	学校施設の整備	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
		11-2	市民の多様な学習に応じた学習環境の整備【視点4】	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
		11-3	学校適正配置に向けた取組					
		11-4	市立幼稚園の再編に向けた取組					
12	市民に信頼される教育関係職員の育成	12-1	教育関係職員の研修プログラムの充実【視点5】	3.5	3.7	3.8	3.5	3.8
		12-2	教職員への支援体制の充実	3.0	2.7	4.0	3.3	3.7
		12-3	信頼される教職員の採用・登用・配置	4.0	2.5	3.5	3.0	3.5

● 施策を構成する事業の進捗状況平均分布(全施策)	評価4…指標を達成した	44.3%	29.0%	29.0%	19.4%	22.6%
	評価3…指標概ね達成した	37.9%	45.2%	51.6%	81.3%	51.6%
	評価2…指標を下回った	17.2%	22.6%	16.1%	19.3%	25.8%
	評価1…指標を大きく下回った	0.0%	3.2%	3.2%	0.0%	0.0%

● 施策を構成する事業の進捗状況平均分布(視点1～5)	評価4…指標を達成した	31.3%	6.3%	12.5%	12.5%	6.3%
	評価3…指標概ね達成した	43.8%	68.8%	62.5%	68.8%	68.8%
	評価2…指標を下回った	25.0%	25.0%	25.0%	18.7%	25.0%
	評価1…指標を大きく下回った	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

● 「5つの視点」の数値平均	視点1	3.7	3.4	3.4	3.3	3.2
	視点2	3.6	3.6	3.6	3.5	3.2
	視点3	4	3	3.5	4	3.5
	視点4	3.1	3.3	3.5	3	2.9
	視点5	3.5	3.7	3.8	3.5	3.8

1 中心的な考え方

第4期実施計画の策定に当たっては、^{*1}第3期実施計画の成果と課題を踏まえ、取組の精選や重点化を図りました。また、その際には、国の第3期教育振興基本計画を十分に参酌するとともに、本市の総合計画「にいがた未来ビジョン」の内容とも調整を図りました。



《中心的な考え方のテーマ》

これからの社会をたくましく生き抜く力の育成 ～学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり～

「これからの社会」とは、人口減少や高齢化、グローバル化の進展に伴う外国人とののかわりの増加、超スマート社会の実現など、これまで誰も経験したことのない社会です。本市においても、^{*2}若者の県外流出等による人口減少や高齢化により、地域の活性化とそれを推し進める人材の確保や育成が必要となってきます。

学びを生かしたり、他者と協働したりしながら、課題解決や自己実現に向けて、様々なことに挑戦し続けるなど、「これからの社会をたくましく生き抜く力」を育てることで、主体的に物事を成し遂げることができる人材を学・社・民が一体となって育成していきます。

■本市が考える「たくましく生き抜く力」とは

学校教育においては、目標に向かって自らの学びを生かしたり、他者と協働したりしながら、様々なことに挑戦し続ける力、また、その過程で自分を振り返り、自分の成長を見出す力。

生涯学習においては、いくつになっても、何度でも学びに向かおうとする意欲をもち、新たな自分を発見したり、生きがいを見つけたりする力、また、自分の学習成果を更なる活動に生かそうとする力。

《5つの視点》 第4期実施計画では、次の視点から重点的な取組を行います。

新潟市の教育を推進する3つの視点

- 【視点1】 これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育てます。
- 【視点2】 学びの循環による人づくり、地域づくりを進めます。
- 【視点3】 地域と一体となった学校づくりを進めます。

学びの基盤を固める2つの視点

- 【視点4】 誰もが安心して学べる環境づくりを進めます。
- 【視点5】 市民に信頼される、魅力ある教育関係職員の育成に努めます。

◆施策概要

児童生徒の学力や表現力、創造力の基礎となる読書習慣の定着を図るために、学校と家庭との連携を進めながら、発達段階に応じた手だてや環境を整えます。学校図書館が読書の楽しさを提供する「読書センター」の役割と、児童生徒が意欲と目的をもって学習に取り組むための「学習センター」「情報センター」の役割を担っていくことができるよう、各学校の取組を支援します。また、児童生徒が活字に親しみ、学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力を育むため、新聞活用の条件整備を進めます。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

4.0

事業1		学校図書館支援センター事業							
事業のねらいと概要		学校図書館支援センターで学校図書館訪問や相談対応及び学校司書実務研修等を通して、学校の実情に合った支援を行います。 学校貸出セット「オレンジBOX」の整備や学校貸出図書搬送システムを活用した資料提供を通して、学校図書館の利活用を支援します。							
R6事業計画		当初予算額		1,356 千円		決算額		1,146 千円	
○学校図書館訪問○業務や資料に関する相談と「新潟市学校図書館実務マニュアル」の改訂○学校司書研修(新任研修を年6回予定、実務研修を年2回予定)、図書館主任向け研修の開催○学校貸出図書搬送事業、学校貸出セット「オレンジBOX」追加整備と貸出○学校図書館に関する情報提供○ホームページ等での情報発信○授業における学校図書館活用事例収集と相談対応									
指標1	アンケートで学校図書館支援センターによる支援が各学校の役に立っていると回答した学校司書の割合(%)						R6評価		
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		80	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90			
進捗状況	-	95.6	97.3	97.0	96.1	97.6	4	101.6%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	R3～R5年度で全校の学校図書館訪問を実施し、現状把握から支援につなげることができた。 R6年度から2週目の訪問に入っている。学校図書館を活用した授業を参観し、各種実践をHPに掲載、水平展開できるよう情報提供をした。R5年1月に入替のあった図書システムに応じて「新潟市学校図書館実務マニュアル」を改訂、運用等に関する日常的な課題にも対応し、円滑な業務遂行につなげた。各種研修を実施し、学校司書のスキルアップや学校図書館の活用推進を図った。「にいがた市電子図書館」のアカウントを市立全学校の児童生徒・教職員に配付し、読書環境の整備を進めた。学校図書館によって整備状況や活用実績に差があるため、引き続き、各種取組による支援が必要である。								
	関係課・機関と連携し、各種取組を継続する。R6年度に学校支援課と協働作成した情報活用能力体系表のさらなる周知や学校図書館の環境整備など、個別の実情に沿った支援や情報提供を行う。学校等への団体貸出(市立学校への学校貸出図書搬送を含む)を継続し、市立図書館として学校図書館の利活用を支えるため、蔵書の整備を進める。								
今後の方向性									

事業2		学校図書館活用推進校事業							
事業のねらいと概要		学校図書館の「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能をより一層高めることを目的として実施します。これによって、豊かな人間性、課題設定能力、情報活用能力、表現力等の資質・能力の育成を目指します。							
R6事業計画		当初予算額		0 千円		決算額		0 千円	
○学校図書館活用推進校による学校図書館活用実践報告会の開催及び、市立学校への実施内容の情報提供									
指標1	学校図書館を活用した授業を月に2回以上行った小学校の割合(%)						R6評価		
Ⅱ型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		40	75	75	77	80			
進捗状況	37.0	99.1	100.0	100.0	100.0	100.0	4	100.0%	
指標2	学校図書館を活用した授業を学期(前後期)に2回以上行った中学校の割合(%)						R6評価		
Ⅱ型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		45	70	70	73	75			
進捗状況	44.6	98.2	98.3	100.0	100.0	100.0	4	100.0%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	R2～R6年度は、小学校、中学校の学校図書館活用推進校が「学校図書館年間活用計画」などの見直しを行い、報告会では、中学校区の司書教諭、司書が情報連携・行動連携して行った図書館運営や、情報活用能力や思考力、判断力を高めることを意識して取り組んだ実践が多数報告された。情報活用能力の育成を支える環境整備には、今後も継続的に取り組む必要がある。								
	R6年度については、中学校区連携を行った推進校は100%、学校図書館の「学習センター」「情報センター」の機能を高める実践を行った推進校が100%であった。情報活用能力の育成を支える環境整備が中学校区の連携を通して整っている学校が増えてきた。そのような環境の整った学校をさらに増やしていくことが課題である。								
今後の方向性	R7年度以降も、学校図書館活用推進事業を継続して行う。自校の実態に合わせて焦点化した取組を行い、学校図書館の利活用を通して、児童生徒の「情報活用能力」の育成につながるよう支援していく。								

事業3		新聞活用の推進						
事業のねらいと概要								
児童生徒が新聞を読むきっかけを作り、学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力を育むため、新聞配備とNIEの実践についての情報提供を行います。								
R6事業計画		当初予算額		111 千円		決算額		115 千円
○新聞を読むきっかけを作り、学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力を育むための、市内8地区の小・中学校、中等教育学校計16校に対する、新聞活用教育で使用した新聞代の助成								
指標1	新聞を活用した授業を行った小学校の割合(%)						R6評価	
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		アンケート実施目標設定	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	75		
進捗状況	-	95.3	96.3	95.3	92.5	97.2	4	105.1%
指標1	新聞を活用した授業を行った中学校の割合(%)						R6評価	
II型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		アンケート実施目標設定	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	70		
進捗状況	-	87.7	93.1	89.7	93.1	96.6	4	103.8%
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性								
成果と課題	校長会より推薦された市内8区、計16校を指定校とし、2か月間に渡り、2紙または3紙の新聞代を助成し、児童生徒が新聞を閲覧したり、教職員が教材として新聞記事を活用したりできるようにした。R5年度より、推進校の中で希望した学校には、無料モニターとして新潟日報記事検索サービスを活用できるようにした。また、県NIE事務局、新潟県支部新聞公正取引協議会の協力により、推進校の全学級に対して、新聞複数配備(5口間)が行われ、子どもたちが複数の新聞を読み比べることができるよう環境を整備することができた。 R6年度は、新聞データベース教材を導入し、徐々に活用が広まっている。							
今後の方向性	R7年度以降も、指定校16校(小学校8校、中学校7校、特別支援学校1校)に対して、情報提供を行う。指定校が作成した事業報告書を、「実践報告集」として配付したり、ネット上のe-supportに掲載したりして、実践成果を広く周知する。新聞の複数紙配備との利活用について働き掛ける。新潟県NIE推進協議会事務局との連携を継続する。家庭学習や授業での新聞データベース教材の活用が児童生徒の新聞を読むきっかけとなるよう、活用方法・活用場面の周知を図っていく。							

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

自然体験や文化・芸術活動などの体験活動を通して、児童生徒の豊かな人間性や社会性を育みます。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

4.0

事業1		子ども体験活動の実施							
事業のねらいと概要		多くの子どもが様々な自然や文化・芸術に触れることができるよう、土日や長期休業の期間を中心に、自然体験活動やものづくり等の体験型事業を継続して実施します。							
R6事業計画		当初予算額		1,003 千円		決算額		807 千円	
○ものづくり体験活動や自然体験活動の実施 ○集団活動による、異学校異学年交流や地域の大人たちとの交流		指標1 参加者の事業に対する肯定的な回答の割合(%)					R6評価		
		I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗
指標目標			95	95	95	95	95		
進捗状況		94	97.9	97.7	95.0	97.2	97.5	4	100.3%
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題		R2年度からR6年度にかけて、子ども体験活動の内容は、自然体験、社会体験、文化・芸術活動等、多様な体験の機会を提供し、参加者の事業に対する肯定的な回答の割合も指標目標以上を維持した。							
		R6年度は78事業を実施して延べ5,785人が参加した。ものづくり体験事業は30事業、地域・学校との連携事業は66事業を実施して、学びを通じ他者との協力や社会性を育んだ。子どもたちの余暇の選択肢は拡大しており、選択肢の一つとして体験活動をいかに取り入れてもらうかが課題である。							
今後の方向性		子どもにとって多様な体験は、健やかな成長や豊かな人間性の育成に欠かせないものであり、子どもが主体的に参加できるよう、学校や地域と連携して体験活動を魅力的な事業として展開していく。							

※体験内容が変わっても、参加した多くの子どもたちにとって有意義な体験になることを目指します。

事業2		優れた音楽・芸術に触れる機会の提供							
事業のねらいと概要		優れた音楽や文化・芸術に触れる機会を提供し、体験を通して、豊かな心を育みます。							
R6事業計画		当初予算額		0 千円		決算額		0 千円	
○「こころの劇場」招待公演の劇場開催									
○文化芸術による子どもの育成事業 巡回・派遣公演									
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題		R2～R4年度は、コロナ禍であったが、劇団四季が児童に観劇の機会を提供したいという意図から希望校へ動画配信という形で無償提供いただいた。R5・R6年度は、特例措置ということで、教育委員会、劇団四季が予算を負担し対面で行った。舞台の感動を通して「命の大切さ」「人を思いやる心」「信じあう心」「夢、子どもたちの情操教育に寄与してきた」という成果はあるが、予算をどのように捻出していくのかという課題も残った。							
		R6年度については、新潟市民芸術会館りゅうとびあど新潟市民芸術文化会館「劇場」の2会場で対面開催した。実施後、児童・教職員を対象とした事後調査において9割以上の肯定的評価を得ることができた。また、教職員からは、「芸術に触れる体験の大切さに改めて気付いた」という声を多くいただいた。予算面で、教育委員会、劇団四季の負担によるものが大きく、今後も続ける取組としていくためには、改善していかなければいけない課題である。							
今後の方向性		R7年度の「こころの劇場」公演は、新潟市民芸術会館りゅうとびあで10月21日と10月22日の2日間3公演で開催し、2,400名程度の参加を見込んでいる。今後も学校の希望や劇団四季の意向も聞き取りながら、できる限り子どもたちに本物の芸術に触れる機会を与えられるようにしていく。							

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

子ども・若者に関する相談及び助言、支援事業などを実施し、自立に向けた取組を行います。また、街頭育成活動や青少年関係団体の活動への支援を行うとともに、公民館で、引き続き青少年が安全で自由に過ごすことができる場を確保し、青少年のための健全な環境づくりを進めます。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

2.5

事業1		若者支援事業							
事業のねらいと概要		新潟市若者支援センターで、若者の社会的自立・職業的自立に向け、若者が自分に自信をもち社会性を身に付け、夢や目標に向かって動き出すことを支援します。また、若者支援センター及び地域で活躍できる若者支援者を養成します。							
R6事業計画		当初予算額		5,680 千円		決算額		5,240 千円	
○継続支援者の終了に向けての支援 ○若者支援者養成研修会の開催									
指標1		継続支援終了者の割合(%)						R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		30	41	44	47	50			
進捗状況	35	28.2	48.9	45.8	67.5	73.7	4	109.2%	
指標2		若者支援者養成研修会参加者数						R6評価	
II 型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	前年度を上回る	166			
進捗状況	61	101	100	113	176	206	4	117.0%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	多様化する若者の状況に適切に対応するため、R3年度から若者支援センターに臨床心理士を配置し、臨床心理士を中心とした研修を実施することで、相談員の専門性の向上に努めた。継続支援終了者の割合については、関係機関と連携し、課題解決を図ったことにより指標目標を上回り、若者支援者養成研修会参加者数についても、若者支援者のすそ野を広げるため、広報に努めた結果、指標目標を上回った。 特にR6年度は、市HPや市報以外にも、市公式LINEの活用や校務支援システムでの教職員への周知を図り、幅広く広報を行った結果、研修会参加者数が指標目標を大きく上回った。								
今後の方向性	継続支援終了に向けての支援は、引き続き、関係機関と連携を強化するとともに、研修の強化により職員のスキルアップを図っていく。 若者支援者養成研修会は、ユースアドバイザー養成講座を兼ねることもあり、より実感的な講座内容となるよう工夫を図るほか、若者支援者のすそ野を広げるため、引き続き広報にも努める。								

事業2		青少年健全育成事業							
事業のねらいと概要		市内の繁華街を中心とした街頭育成活動や非行防止キャンペーン活動などを通して、青少年の非行・被害の未然防止に取り組みます。また、各地区青少年育成団体等の活動支援や「わたしの主張大会」の取組を推進し、青少年の健全な成長を支える地域力の活性化を図ります。							
R6事業計画		当初予算額		2,295 千円		決算額		1,881 千円	
○街頭育成活動 ○わたしの主張大会開催									
指標1	街頭育成活動における1回当たりの声掛け数(回)						R6評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		3.1	5.2	5.5	5.8	6.0			
進捗状況	4.6	2.7	2.6	2.3	3.4	3.5	1	102.9%	
指標2	わたしの主張大会応募学校数・団体数						R6評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		26	27	28	29	30			
進捗状況	25	9	11	16	11	15	1	136.4%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後、街頭育成活動における声掛け数は、指標目標に届かないものの、徐々に増加している。育成員の資質・能力の向上を目的とした代表者会議や育成員研修会を通して、見守り中心の活動から積極的な声掛けを実施できていることが理由として挙げられる。「わたしの主張」については、応募学校数及び団体数は伸びず、学校における主張作文に係る授業の削減、校内外の行事等の縮小や精選が要因として考えられる。 R6年度も、通常の育成活動日以外に、より社会や青少年の実態に合うよう特別育成活動を実施したほか、被害・非行防止キャンペーンでは、関係団体から約100名の参加があり、各学校や関係機関との連携・協働を着実に進めることができた。「わたしの主張」では、応募学校数及び団体数は指標目標に届かなかったが、大会当日は、家族や学校関係者、市民など約150名が来場し、来場者数は、前年度を5割上回った。また、応募総数は313作品で、前年度と比べ倍増した。								
今後の方向性	青少年の動向に注視し、通常の活動はもちろん、特別育成活動も柔軟に設定しながら街頭育成活動を実施していく。また、引き続き、交番や店舗との連携を図り、青少年の被害・非行防止に努めていく。 「わたしの主張」は、新潟市中学校長会との連携、各地区青少年育成協議会への働き掛けを拡充していくとともに、機会を捉えてのPRの積み重ねを行い、応募学校数及び団体数の増加を図っていく。								

※声掛けを積極的に行うことで、非行等の未然防止につなげます。

※学校や育成協からの応募数を増やすことにより、より多くの子どもの参加を促し、学校内や地域での取組を活性化します。

事業3		青少年の居場所づくり事業				
事業のねらいと概要						
子どもたちが安全で自由に過ごすことができるよう、公民館の一室または共有スペースを「子どもの居場所」として開放します。また、各図書館で青少年向けの図書を集めた「ティーンズコーナー」と学習や読書に利用できる席を設置します。						
R6事業計画		当初予算額		53 千円	決算額	59 千円
○放課後や休日の「青少年の居場所」として、公民館の講座室やフリースペースを青少年に開放						
○夏休みなどの長期休業中の学習室の開放や、映画上映などの単発イベント実施を通じての居場所提供						
○青少年向けの資料を収集した「ティーンズコーナー」の設置						
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性						
成果と課題	図書館の「ティーンズコーナー」に同世代の子どものおすすめの本の紹介文や図書の展示を行い、居場所の充実に取り組んだ。また、学習や閲覧できる環境を提供した。 公民館について、R2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で利用数は前年度比▲37.3%の48,957人と減少したが、小中学校のタブレット端末の活用に合わせて、公民館にWi-Fi設備を整えたことで子ども同士の交流や自主学習の支援につながり、居場所としての利用が増加し、R6年度は、22館の公民館で延べ96,354人が利用した。					
今後の方向性	引き続き、図書館に設置した「ティーンズコーナー」の充実に努める。 公民館は、今後も子どもたちが日分らしく安心して過ごせる場所として、多くの児童・生徒に利用してもらえるよう、環境整備に配慮した運営に取り組む。					

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

未来の新潟を担う子どもたちが、自分たちの住む郷土新潟を広く知り、深く愛せる人になるよう、学校において地域学習を推進するとともに、公民館においても地域の文化や伝統を体感できる活動を推進します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

4.0

事業1		学校における地域学習の推進	
事業のねらいと概要			
学校において、地域の特色を調べたり、発信したりするなどの活動を行い、地域に対する誇りや地域を愛する心を育みます。			
R6事業計画	当初予算額	0 千円	決算額
			0 千円
()全ての小中学校において、総合的な学習の時間に地域への愛着を深める単元を位置付けた指導計画の実践			
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性			
成果と課題	R2～R6年度にかけて、総合的な学習の時間の全体計画を提出させ、学校がどのような学習を進めているか把握した。 R6年度については、全体計画をすべての学校が見られるような環境を整え、次年度の取組の参考となるようにした。また、全体計画では、すべての学校が、地域と関連させた学習を行っており、着実に地域への愛着を深める単元を実施できている。		
今後の方向性	保健衛生総務課の「地域の特色を活かした環境学習支援事業」や環境政策課の「環境学習モデル校支援事業」、食と花の推進課の「食と農のわくわくSDGs学習推進事業」など、総合的な学習の時間に使える予算がある。これらの事業を有効に活用し、学校の取組がさらに充実するように情報共有をしていく。		

事業2		伝統文化の体験学習							
事業のねらいと概要									
子どもたちが、地域や日本の伝統文化を体験するための学習の機会を設けます。									
R6事業計画		当初予算額		938 千円		決算額		900 千円	
○地域の歴史や伝統文化を学習・体験									
○地域の魅力を学び、地域への愛着の育成									
指標1	伝統文化の体験学習事業の参加者数						R6評価		
Ⅱ型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		1,200	前年度以上	前年度以上	前年度以上	6,400			
進捗状況	6,293	1,906	3,051	6,689	5,973	6,805	4	113.9%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	R2～R6年度にかけて、継続的に実施し、地域の良さを子どもたちに伝える取組を推進してきた。								
	R6年度には、52事業を実施し、延べ6,805人が参加するなど、多くの児童・生徒に体験の機会を提供した。参加者アンケートにおいて、「気づきがあった」と回答した割合が92%に達するなど、事業の効果が高く評価されている。また、親子参加型事業や地域団体との連携による事業も実施し、体験活動を通じて世代間交流の促進にも取り組んできた。課題は、事業を通じて参加者の満足度は高いものの、提供する体験内容が伝統文化に偏りがちであり、地域の多様な文化的・社会的魅力を広く伝える取組には至っていないことが課題である。								
今後の方向性	これまで培った伝統体験事業の成果を生かし体験内容の多様化を図る。コミュニティ協議会や地域団体との連携をさらに強化し、親子・地域住民を巻き込んだ世代間交流の促進と、より多くの子どもたちが地域の良さを体感できるよう取り組んでいる。								

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

日常生活の中で市民一人一人の人権が尊重され、偏見や差別を生み出さない社会を実現するための人権教育、同和教育、男女平等教育を進めます。職員一人一人が人権問題や同和教育に関心をもち、理解と認識を深め、市民の良き相談役・パートナーとしての資質を高めるとともに、公民館では、女性セミナーや人権講座、家庭教育学級などの事業を通して、市民に人権意識を啓発します。また、人権問題や同和教育について、教職員が差別の現実を正しく認識し、子どもへの教育を推進します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

3.7

事業1

事業のねらいと概要

学校における人権教育・同和教育の推進

人権教育、同和教育の推進のために、校内研修などが全ての教職員に確実に実施されるように支援します。

R6事業計画

当初予算額

362 千円

決算額

144 千円

○人権教育、同和教育関係研修会への派遣推進(第38回新潟県同和教育研究会など)

○外部講師中学校区研修会派遣事業をはじめとする校内研修会への支援

○より多くの教職員が研修を受けることができるための研修実施方法の工夫と周知

指標1 人権教育、同和教育に関する校内研修を実施した学校の割合(%)							R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		100	100	100	100	100		
進捗状況	100	100	100	100	100	100	4	100.0%

R2～R6の成果と課題及び今後の方向性

成果と課題	R2～R6年度は、すべての新潟市立学校園で、年間2回以上の人権教育、同和教育に関する校内研修が実施されている。一方で、特に経験年数の浅い教職員から、「人権教育の授業に自信がない」、「同和教育の授業をどのように進めていけばよいのか分からない」という声がある。教職員が自信をもって人権教育、同和教育を推進していけるよう、各種研修会の開催方法の工夫(オンライン、オンデマンド配信)や、研修内容の精査を行っていく。 R6年度については、同和教育を中核とした人権教育を推進するということで、特に、県同教発行の同和教育副読本「生きるシリーズ」を活用した授業力の向上に焦点を当てた研修会を実施した。人権教育、同和教育の授業実践を促すことができた。校内研修の充実と外部研修会への積極的参加を継続的に促す必要がある。
今後の方向性	教職員が自信をもって人権教育、同和教育を推進していけるよう、年層別(初任者、中堅、管理職)の研修を充実させるとともに、研修内容の精査を行っていく。

事業2

事業のねらいと概要

公民館における人権教育の推進

人権意識の啓発を図るため、女性や子ども、障がいのある人や外国籍の人たちの人権を学ぶ講座などを実施・継続します。

R6事業計画

当初予算額

3,028 千円

決算額

2,171 千円

○男女共同参画について学ぶ女性セミナーや、障がい者・子どもなどの人権について学ぶ講座、国際理解を促す講座を実施

○家庭教育学級などの子育て関連講座においての積極的な意識啓発

指標1	公民館の人権教育事業の参加者数						R6評価	
Ⅱ型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		500	前年度以上	前年度以上	前年度以上	3,300		
進捗状況	3,225	2,227	2,708	2,990	3,008	3,262	3	108.4%

R2～R6の成果と課題及び今後の方向性

成果と課題	R2～R6年度にかけて、人権に関する講座を継続的に実施し、地域住民の人権意識の向上と、多様性を尊重する社会づくりに寄与した。オンライン講座の実施により時間や場所の制約を受けにくい学習機会を提供し受講者層の拡大に努めた。R6年度は、人権講座は46講座3,262人が受講した。幅広い世代を対象に、差別や偏見の解消、共生社会の実現に向けた啓発活動を推進した。人権講座の開催により一定の啓発効果は見られたものの、現代的な人権課題など新しい課題も顕在化しており、地域全体への意識浸透に課題が残る。
今後の方向性	引き続き、地域住民への啓発に努めるとともに、多様化・複雑化する人権課題を的確に捉えた講座展開を推進する。また、人権講座に限らず、各種講座においても人権意識を取り入れた学びを促進し、地域社会での実践につなげる取組を進め、幅広い分野における人権教育の推進を図る。

事業3		新潟市人権教育研修会						
事業のねらいと概要		行政職員（市長部局、教育委員会）や学校教職員等を対象に、人権教育研修会を開催し、職員一人一人が人権問題や同和問題に関心をもち、理解と認識を深め、市民の良き相談相手役・パートナーとしての資質を高めます。						
R6事業計画		当初予算額		13 千円		決算額 <td>4 千円</td>		4 千円
○人権教育研修会の開催								
指標1		アンケートで「人権問題・同和問題への理解が深まった」と回答した職員の割合（％）					R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比
指標目標		100	100	100	100	100		
進捗状況	94	97	100	97	97.2	100	4	102.9%
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性								
成果と課題	行政職員や学校教職員を対象に、「インターネットによる差別・誹謗中傷と人権侵害」、「子どもの人権と権利救済」、「新潟県における部落差別事件」などをテーマに外部・内部講師により研修を行った。 R6年度から研修形式をオンデマンドとしたことで、時間・場所を問わず、より多くの職員から受講してもらうことが可能となり、人権問題に関する認識や理解を広く共有することができた。計画期間中1/3は目標達成したものの、2/3は目標を下回っていることから、人権意識の向上のため継続的な研修が必要である。							
今後の方向性	最終年度に実施したオンデマンド形式による研修は、参加者からも、「受講しやすい」と好評だったため今後も継続することとし、内容の充実に向けて、関係機関・団体と連携し、参加者アンケートの結果も参考にしながら研修テーマを設定していく。							

※年度により研修に参加する職員が変わっても、全ての職員が確実に理解できるような研修を目指します。

事業4		男女平等教育の推進							
事業のねらいと概要		児童生徒が自分らしさを大切にして、個性や能力を発揮し、固定的な性別的役割分担意識にとらわれずに主体的に進路や職業を選択できるよう、キャリア形成に係る学びを充実させることを目指して実施します。各校に改訂版学習資料及び指導の手引を配付するとともに、男女平等教育推進研究会を開催し、指導内容の改善を図ります。							
R6事業計画		当初予算額		34 千円		決算額		28 千円	
○男女平等教育推進研究会の開催									
○児童生徒用男女平等教育学習資料の活用と保護者啓発の推進									
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題		R2～R6年度において、小学校・中学校いずれも男女平等教育は年間指導計画に位置付けられており、確実に実施されてきた。男女平等教育推進研究会の中で、「学習資料」の内容が児童生徒の実態に合わないこと等が指摘され、「学習資料」改善が課題であった。また、第4次男女共同参画行動計画の重点事項となっている保護者啓発に関しては、具体的な取組を提示した上で、配付資料を活用しやすいように校務支援システムに格納したことで、取組が向上した。 R6年度では、男女平等教育推進研究会では、「学習資料」の改訂案に、委員からの意見や小・中学校籍の委員の実践を取り入れながら修正を重ね、令和8年度からの使用に向けて作成を進めた。							
今後の方向性		R7年度末の「学習資料」改訂案のデータ配付を目指し、資料活用の手引きを作成していく。より児童生徒の実態に即しながら本事業のねらいを達成できる「学習資料」になるように、検討を重ねる。							

事業5		各種啓発図書の展示							
事業のねらいと概要		人権啓発や男女共同参画等を推進するために、関係課と連携協力し図書を集めた展示を実施するとともに、学校での授業や学校図書館の展示に必要な図書を提供します。							
R6事業計画		当初予算額		0 千円		決算額		0 千円	
○関係課と連携協力した、人権啓発や男女共同参画等の展示の実施 ○人権啓発や男女共同参画等を推進するため、必要な図書を学校へ提供									
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題		中央図書館のエントランス等を利用した市民への情報発信として、関係課との連携協力による企画展示を行い、人権啓発や男女共同参画等に関連する資料の展示を行った。 学校への団体貸出(学校貸出図書搬送を含む)を継続し、学校からの依頼に沿った図書を提供できるよう、蔵書の整備を行った。							
今後の方向性		引き続き、関係課と連携するとともに関連資料を収集し、展示機会の維持に努める。学校への団体貸出は、今後も制度を維持し、蔵書の整備に努める。							

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

家庭教育力の向上に向け、学校と家庭及び地域と家庭の連携の推進、家庭教育に関する不安や疑問などに対応する学習機会や相談体制の充実に取り組みます。子育て中の保護者が安心して学習できる機会や家庭教育に関する情報を提供するとともに、子育ての悩み等を共有できる仲間づくりを進めるなど、学びを生かす取組も支援します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

3.0

事業1		家庭教育振興事業							
事業のねらいと概要		子どもの成長期に合わせて、子育てに関する知識や親としてのかわりなど必要な情報を提供します。また、学校などと連携・協力しながら、家庭教育の啓発を図ります。							
R6事業計画		当初予算額		6,200 千円		決算額		5,167 千円	
○出産前・乳児期・幼児期・児童期・思春期の子育て各期にわたる家庭教育学級や、父親や祖父母を対象とした子育てに関連した講座の実施									
○学校を会場にした子育て学習出前講座の実施									
指標1		家庭教育学級でのアンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合(%)						R6評価	
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90			
進捗状況	84.4	91.1	91.2	89.0	91.2	92.5	4	101.4%	
指標2		保護者を対象とした家庭教育にかかわる講座等を実施した小中学校の割合(%)						R6評価	
II型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		70	前年度以上	前年度以上	前年度以上	100			
進捗状況	93.8	71.2	70.4	75.9	82.4	79.6	2	96.6%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
R2年度からR6年度にかけて、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の影響で、保護者が対面による家庭教育学級への参加を控える傾向が見られたことから、受講の機会を確保するため、場所を問わず受講しやすいオンライン形式による講座を一部実施した。									
R6年度は、66事業を実施して延べ1,972人が参加した。そのうちオンライン講座は9講座実施した。子育ての悩みや不安の解消に向けた取組や保護者同士の交流の機会を提供した。子育て学習出前講座は、小学校85校、中学校8校で実施し4,426人が受講した。普段多忙な保護者にも、家庭教育の重要性について情報を提供することができた。SNSやインターネット等による情報収集が一般化する中においても、保護者へ公民館講座に関心を向けってもらう取組が必要である。									
成果と課題									
今後の方向性		保護者が子育てにおいて孤立感や孤独感を抱えることのないよう、子ども未来部や区健康福祉課と連携し、子育てに関する情報共有や取組の実施を進めることで、教育と福祉が一体となって支援に取り組む体制をより充実させる。							

事業2		子育て支援事業			
事業のねらいと概要		子育て中の保護者に家庭教育の知識や情報を提供します。また、子育てフリースペース事業では公民館に乳幼児期等の親子が自由に入出りできる場所を設けたりイベントを実施したりして、親同士の交流を促進します。			
R6事業計画		当初予算額	119 千円	決算額	167 千円
○乳幼児期の親子が気軽に利用できる居場所の設置 ○親子で気軽に参加できるイベントなどの開催					
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性					
成果と課題	R2年度からR6年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、「三つの密(密閉・密集・密接)」を避ける必要があったことで、参加者同士の交流の機会が制限された。5類感染症相当に移行したことを受け、交流の機会は徐々に回復傾向にある。 R6年度は、17公民館で延べ7,710人の利用があり、子育て期の親の孤立感・不安感の軽減に努めた。今後も、参加者同士の交流を円滑に進める環境整備や支援体制に努める。				
今後の方向性	環境整備や支援体制を継続的に維持していくためには、ボランティアの力が不可欠であることから、支援者の確保および育成に取り組む。				

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をよりよく生きる力を身に付けていく上で、欠くことのできない読書活動を推進するとともに、読書を通して親子のきずなを深めるために、保護者を対象とした取組を行います。また、乳幼児と一緒に図書館を利用しやすいように環境を整備します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

4.0

事業1		ブックスタート事業							
事業のねらいと概要		乳幼児期からの読書習慣の形成を目指すために、1歳誕生歯科健診会場でボランティアが親子一組ずつに絵本を通して親子のふれあいや読み聞かせの意義などの説明と絵本の読み聞かせを行い、希望する絵本を1冊手渡して絵本を通して親子のふれあいや読み聞かせの大切さを伝えます。							
R6事業計画		当初予算額		3,104 千円		決算額		3,104 千円	
○ブックスタート事業の継続 ○R7年度実施予定のブックスタートアンケートの準備									
指標1		ブックスタートアンケートにおいて家庭で読み聞かせをしていると回答した割合(%)						R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標			83		85				
進捗状況	81.4		97.4		78.8				
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	新型コロナウイルス感染症の流行により、健診会場でのブックスタートの実施内容を変更した期間があり、会場での読み聞かせ体験が行えなかったため、R5年度では指標目標に届かなかった。事業としては途切れることなく実施し、家庭での読み聞かせの大切さを伝える働きかけを行った。								
	ブックスタート後の家庭での読書環境の支援が課題である。								
今後の方向性	引き続き、関係課と協力・連携し、1歳誕生歯科健診全ての会場で絵本の読み聞かせと手渡しをすることで、家庭での読み聞かせについて働きかけを行う。 R7年度に3歳児健診会場でブックスタートアンケートを実施し、今後の事業充実に生かす。「新潟市読書バリアフリー推進計画」に基づき、文字による読み聞かせが困難な親子への支援を進めていく。ブックスタート後の読書環境支援にも努めていく。								

※3歳児保護者対象の「ブックスタートアンケート」(隔年実施)で調査します。

事業2		赤ちゃんタイム							
事業のねらいと概要		乳幼児連れの保護者のための時間を設けるとともに、一般の利用者への周知と理解を図ることで、乳幼児を連れた保護者が図書館を利用しやすい環境づくりをする。							
R6事業計画		当初予算額		0 千円		決算額		0 千円	
○赤ちゃんタイムの実施									
○保護者へ読書の働きかけ									
指標1		中央図書館及び各区中心図書館において週2回以上実施した館数					R6評価		
II 型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		3館は週2回	4館は週2回	6館は週2回	7館は週2回	全7館で週2回以上実施			
進捗状況	2館は週2回 (5館は週1回)	3館は週2回 (4館は週1回)	5館は週2回 (2館は週1回)	7館は週2回	7館は週2回	7館は週2回	4	100.0%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	赤ちゃんタイムの実施回数を年度ごとに拡大し、R4年度には中央図書館及び全ての中心図書館で週2回の実施となり、指標目標を達成した。そのことにより、家庭での読書環境の充実だけでなく、乳幼児連れの保護者が図書館を利用しやすい環境となった。目標達成後は親子向けイベントでのPRや子育て支援施設への案内チラシ等の設置などを行い、事業の周知に努めた。 赤ちゃんタイム内の「絵本なんでも相談タイム」での相談件数が少ないため、継続的な職員研修を行う必要がある。								
今後の方向性	今後も7館で週2回の赤ちゃんタイムを実施し、職員のスキルアップを図ることで、乳幼児を連れた保護者が気軽に相談できるような環境づくりを行う。保育施設と連携し、赤ちゃんタイムのさらなる周知に努め、図書館への来館につなげる。								

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

あらゆる世代の市民の主体的な学習活動を推進するため、高等教育機関及び企業と連携しながら、時代や社会の変化並びに市民の学習ニーズに応じた多様な学習機会の提供を効果的に進めていきます。また、市民一人一人の学習活動や、市民が学びに出会い、学びを深めていく場を支援するため、広く学習情報や資料を提供していきます。また、生涯にわたる学びの基礎となる読書習慣の定着を図るため、子どもの読書環境を整備します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均
2.6

事業1		にいがた市民大学開設事業							
事業のねらいと概要		現代的な課題など専門性の高い講座や、時代や社会の変化並びに市民の学習ニーズに対応した講座を通して、より豊かな市民生活に資するため、高等教育機関等と連携しながらにいがた市民大学を開設します。受講後は学習で得た知識や経験等が地域活動や教育活動で生かされるよう、受講生による自主グループ化の支援に努めます。							
R6事業計画		当初予算額		3,217 千円		決算額		2,235 千円	
○前期講座5講座 ○後期ゼミ講座 ○特別講座5講座 ○自主グループ化の支援									
指標1		受講者の満足度(前期・後期講座、特別講座)(%)						R6評価	
Ⅱ型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	95			
進捗状況	89	75.0	78.0	88.0	90.9	89.8	3	98.8%	
指標2		受講者主体による自主グループ数						R6評価	
Ⅰ型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		15	16	17	18	19			
進捗状況	14	11	10	8	8	9	1	112.5%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	R2年度からR6年度にかけて、一部遠隔講座やリモート配信を取り入れるなど、市民の生活スタイルに応じた多様な学習機会を提供した。講座によっては、県外在住の人や中学生・高校生も受講し、受講者層が拡大した。								
	R6年度は、長期講座5講座、短期講座3講座を実施して、全体で437人(長期233人、公開89人、短期115人)が受講した。後期ゼミナール講座は1講座を実施し、自主グループ化に至った。受講者が前年度の14.9%にあたる77人の減のため、受講者拡大のために市民のニーズに合った講座を検討する必要がある。								
今後の方向性	R6年度に第30回記念ということで実施した高校生以下の無料受講は、若年層の受講者の拡大と将来に向けて継続的な受講を促すことを目的に、18歳未満無料として試行的に継続する。また、市民のニーズに合った講座を検討していく。								

事業2		現代的課題を学ぶ公民館事業と学習成果を発表する場の提供							
事業のねらいと概要		市民の自発的な学習活動を支援するために、青年期から高齢期までの各世代の課題やニーズに応じた様々な公民館事業を展開します。また、文化祭などを開催し、市民に学習成果を発表する場を提供します。							
R6事業計画		当初予算額		3,084 千円		決算額		2,765 千円	
○高齢者の孤立、地域関係の希薄化、若者の地域離れなど、地域や社会の課題などについて考える講座を実施									
○文化祭や芸能祭、展示会など、公民館活動で学んだ成果発表の機会を提供									
指標1		現代的課題を学ぶ講座等に参加した人の満足度(%)						R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		95	95	95	95	95			
進捗状況	95	93.5	91.5	94.0	92.9	94.2	3	101.4%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題		学びを通じ地域の活性化や交流の促進に努めてきたが、R2年度からR6年度にかけて、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の影響で、参加者の多くが高齢者であるため、文化祭等の事業を中止した。現在はR2年度の169講座から約60%増の271講座まで伸びた。 R6年度は、オンライン講座16講座、学校への出前講座17講座(子育て学習出前講座を除く)、スマートフォンやパソコンを学ぶデジタル関連講座17講座を含め271講座を実施し、延べ57,181人参加した。							
今後の方向性		学習成果の発表がサークル活動のやりがいであり、活動継続の原動力となっている。また、地域の住民交流の機会となっているため、公民館としても各団体に寄り添いながら、引き続き支援をしていく。							

※課題やニーズに応じた公民館事業を展開し、参加者の満足度を維持していきます。

事業3		子どもの読書環境整備事業							
事業のねらいと概要		子どもが読書習慣をつけるために、子どもまたは親子を対象とした事業の実施やうちどく（家読）推進のために各種事業を実施し、子どもの読書環境整備を進めます。							
R6事業計画		当初予算額		0千円		決算額		0千円	
○新潟市子ども読書活動推進計画の推進 ○子どもまたは親子を対象とした事業の実施やうちどく（家読）推進のために各種事業の実施 ○電子図書館事業による児童生徒のさらなる読書環境の整備									
指標1	市立図書館の児童書貸出冊数						R6評価		
I型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	1,185,000			
進捗状況	1,160,205	957,839	1,071,306	1,066,256	1,157,227	1,052,349	2	90.9%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	・うちどく推進のため、読書を楽しみ、記録する喜びを感じる機会として「うちどく読書ノート」を配布し、読書環境の整備に取り組んだ。「おはなしのじかん」を全館で行い、親子で絵本の読み聞かせやわらべうたの体験を通して読書活動を推進した。R5年度に児童生徒に対して電子図書館専用のID・PWを配付し、学習タブレット端末からの電子図書館利用環境の整備を図った。 R6年度は継続して取り組んだが目標には達しなかった。近年は少子化の影響もあり利用が減少してきており、図書館単独の事業だけでは利用の増加が図れなくなっていることが課題である。								
今後の方向性	引き続き、うちどくを推進し、子どもの読書環境を整備する。他の施設との連携事業を積極的に実施することで、読書活動の推進に繋げる。								

事業4		市民に身近な生活課題解決のための情報提供事業							
事業のねらいと概要		市民の生活課題や地域課題の解決に役立つよう、資料や情報を提供するとともに様々な講座を開催します。							
R6事業計画		当初予算額		0千円		決算額		0千円	
○レファレンスサービス(調査相談)の実施 ○くらしに役立つ講座の実施 ○レファレンス事例のホームページ公開や、国立国会図書館レファレンス協同データベースへの参加									
指標1		情報提供を受けた人と講座に参加した人の満足度(%)						R6評価	
I型	R1	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		前年度以上	前年度以上	前年度以上	前年度以上	90	4	105.4%	
進捗状況	82	94	87	90	93	98			
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	「くらしの情報講座」は、健康や資産運用など市民に関心の高いテーマの講座を開催し、生活課題の解決につなげることができた。「ビジネス支援セミナー」を開催し、初めての起業に役立つ情報や資料提供を行い、起業への支援につなげることができた。 職員のレファレンス研修を実施し、レファレンス技術が向上したことにより、高い満足度を得ることができた。レファレンス事例の蓄積と公開については、毎年度、図書館のホームページと国立国会図書館レファレンス協同データベースで公開し、広く役立ててもらうことができた。講座のテーマ設定について、若い世代に役立つテーマを設定することで、図書館利用につながるよう工夫することが課題である。								
今後の方向性	レファレンスサービスについては、職員のスキルアップを図るとともに、市民へのPRを行う。今後も蓄積したレファレンス事例を、新潟市の図書館ホームページや国立国会図書館レファレンス協同データベースで公開する。								

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

市民が学んだ知識や成果を教育活動や地域に生かすために、生涯学習ボランティアなどを育成するとともに、学校や地域などと連携しながら、その活動の場を支援します。また、地域課題学習を通して地域活動を担う人材を育成し、地域コミュニティ協議会などの地域団体の地域課題解決を支援します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均
3.0

事業1		生涯学習ボランティア育成事業									
事業のねらいと概要		市民一人一人が自らの学習で培った知識や経験を地域活動や教育活動等に生かすとともに、その活動が新たな自分を発見したり、生きがいを見つけたりすることにつながるよう、人材の育成と活動を支援します。									
R6事業計画		当初予算額			117 千円		決算額		92 千円		
○生涯学習ボランティアの育成											
○生涯学習ボランティアの活動の場の支援											
○講師紹介ガイドの作成(更新)											
指標1		生涯学習ボランティアバンク登録者数						R6評価			
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比			
指標目標		1,390	1,410	1,430	1,450	1,470					
進捗状況	1,367	1,361	1,216	1,221	1,253	737	1	58.8%			
指標2		生涯学習ボランティア活動件数						R6評価			
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比			
指標目標		560	570	580	590	600					
進捗状況	550	1,082	977	1,194	671	924	4	137.7%			
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性											
成果と課題		R2年度からR6年度について、市民が学んだ知識や成果を教育活動や地域に生かすために生涯学習ボランティアバンクを設置し、主体的に地域貢献活動へ参画する環境を整備し、生涯学習の実践と地域の活性化につながるよう努めた。生涯学習ボランティアバンク登録者をその知識や技能、経験に応じて、学校や地域団体等からの要請に基づき派遣を行い、また、ボランティア経験の浅い登録者向けに自ら企画、運営する「自主企画講座」を実施した。 R6年度は、3年に1度の登録更新の年であり生涯学習ボランティア登録者は58%減の737人が更新した。生涯学習ボランティア活動件数は924件だった。登録者数の大幅な減少は、更新しなかった15団体(約490人)の多くが高齢を理由による団体運営維持が難しいことなどが主な理由だった。									
今後の方向性		生涯学習ボランティアバンクの更なる周知と登録者の拡充を図るとともに、活動が特定の人材に偏ることのないよう配慮し、より多くの市民が無理なく関わられる仕組みづくりを推進していく。									

事業2		地域活動を担う人材の育成							
事業のねらいと概要		市民の主体的な地域課題学習を支援するために、地域コミュニティ協議会などの地域団体と連携しながら、地域活動を担う人材を育成します。							
R6事業計画		当初予算額		952 千円		決算額 <td colspan="2">664 千円</td>		664 千円	
○地域の交流を軸とした、シビックプライド醸成を図る事業の実施									
○地域課題解消への意識啓発及び、地域コミュニティ活動活性化に資する人材の発掘・育成									
指標1	地域コミュニティ活動の活性化を支援する事業で学んだ成果を今後に生かしたいと回答した割合(%)						R6評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		82	84	86	88	90			
進捗状況	80	86.1	87.1	89.0	88.2	92.2	4	104.5%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	R2年度からR6年度にかけて、地域における多様な主体と連携し、有能な人材の発掘・育成に努めた。魅力的な地域事業の実施や、地域課題の解決に向けた実践的な取組を通じて、一人一人が自信をもって地域活動に参画できる環境づくりを推進した。 R6年度は、127事業を実施し延べ17,473人が参加した。うち104事業で地域コミュニティ協議会や学校など地域団体と連携事業を行った。地域活動や役割が一部の特定の人材に集中する傾向が見られる。より多くの市民が無理なく関わられる仕組みづくりが課題である。								
今後の方向性	公民館を地域の人づくり・まちづくりの拠点として、地域住民の意向を把握し、各種団体と連携を図り一体となって地域づくりの取組を行い、人材の育成と一層の地域活性化を図る。								

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

「地域とともにある学校」を目指し、学校と地域が共通の目標をもって、学校と社会教育施設、家庭、地域をつなぐネットワークづくりをさらに進め、協働事業を一層推進します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

3.5

事業1		コミュニティ・スクール推進事業							
事業のねらいと概要		学校運営協議会を設置し、保護者、地域、学校が一体となって子どもの成長を支える体制を築き、「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」を旨とした学校づくりを進めます。							
R6事業計画		当初予算額		33,347 千円		決算額		26,995 千円	
○ 市内8区で夏季・冬季のコミュニティ・スクール講座を開催する。									
指標1	学校運営協議会の設置中学校区数 ※()内は学校数						R6評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		4(12)	8(22)	56(165)	56(165)	56(165)	4	100.0%	
進捗状況	-	4(12)	8(22)	56(165)	56(167)	56(171)			
指標2	制度が機能していると回答した協議会の割合(%)						R6評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		80	80	80	85	90	4	102.1%	
進捗状況	-	88	89	93	96	98			
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題		R6年度初より幼稚園5園を加え、市内全学校園に学校運営協議会の設置が完了した。各学校運営協議会の内実を高めるため、R5年度より委員や教職員、社会教育施設職員を対象としたコミュニティ・スクール講座を開催し、R6年度までの2年間で約800名の参加があった。学校運営協議会制度の理解促進と熟議のスキルアップを目指すことを目的とした内容は、参加者からも高い評価を得ることができた。 中でもR6年度は学校管理職(校長)を対象としたCS講座(指名研修)を行い、コミュニティ・スクールに対する理解促進と、求められる役割について共通認識を図った。市内学校園全体で意識を高めることができた。CS講座により多くの委員が参加できるようにすることや、講座が一層参加者のニーズに適した学びの場となるように工夫していくことが課題である。							
今後の方向性		R7年度は、より多くの委員の参加が実現するよう、CS講座に夜の開催口を設けるとともに、内容を基礎編、応用編に分けて実施し、その効果を検証し、検討を重ねていく。 また、学校管理職または地域連携担当職員が参加するCS講座(指名研修)を開催することで、コミュニティ・スクール推進事業の意義について学校職員の理解を促進し、より保護者、地域、学校が一体となって子どもの成長を支える、効果的な学校運営協議会の実施につながるよう支援する。							

事業2

事業のねらいと概要

地域と学校パートナーシップ事業

学校教育活動のさらなる充実を図り、学・社・民の融合による教育を進めることを目的として、学校と地域を結ぶ地域教育コーディネーターを配置し、以下の取組を行います。

○学校と社会教育施設、地域活動を結ぶネットワークづくり

○学校の教育活動、課外活動における地域人材の参画と協働

○学校における地域の学びの拠点づくり

○学校の教育活動の様子を地域に発信

※「地域活動を結ぶネットワークづくり」や「地域人材の参画と協働」には、市立高等学校におけるインターンシップも含まれています。

R6事業計画

当初予算額

143,205 千円

決算額

134,519 千円

○コミュニティ・スクールとの一体的な取組を見据えた「一層の重点化」「目標共有の会を経た役割分担」及び「特色ある教育活動の市民への周知」の推進

指標1

1校あたりの学校支援ボランティア延べ人数

R6評価

I 型

現状

R2

R3

R4

R5

R6

進捗

前年度比

指標目標

1,320

2,080

2,110

2,140

2,170

4

98.8%

進捗状況

1,989

1,858

2,015

2,159

2,240

2,213

2

83.9%

指標2

市立高校生インターンシップ受け入れ企業数

R6評価

I 型

現状

R2

R3

R4

R5

R6

進捗

前年度比

指標目標

11

26

28

30

32

2

83.9%

進捗状況

22

11

13

23

31

26

R2～R6の成果と課題及び今後の方向性

成果と課題

ボランティア延べ人数は、概ね指標目標を上回ることができた。学校運営協議会で目標や課題の共有と役割分担が行われるようになり、地域と学校パートナーシップ事業で学校課題や地域課題の解決のための取組が実施されたことも成果の一因として考えられる。

R6年度も講座や研修を実施し、学校、保護者、地域が当事者意識をもち、地域全体でこどもを育てることができるようコミュニティ・スクールと地域と学校パートナーシップ事業の一体的推進に取り組んだ。

インターンシップの受け入れ企業数は徐々に増加しており、R6年度については企業数は減少しているものの、1社が2グループを受け持つことにしたため、実質の受け入れ数は増加している。様々な企業が学校と連携してくれることを目的にしていると思われ、企業への周知は課題である。

今後の方向性

コミュニティ・スクールと地域と学校パートナーシップ事業の一体的推進をさらに進める。そのために、研修内容を工夫するとともに、地域学校協働推進室指導主事の訪問による指導助言を行う。また、事業通信等で取組の好事例を紹介して、各校の取組が向上できるように支援していく。高等学校におけるインターンシップが一層充実した取組となるように、新潟市高等学校等教育コンソーシアムの枠組みを積極的に活用し、関係機関との連携を密にしていく。

◆推進委員からの意見・要望等

基本施策 9	地域と学校・社会教育施設が協働する教育の推進	施策 3	地域人材や高等教育機関、企業等との連携の推進
--------	------------------------	------	------------------------

◆施策概要

地域の専門的な技能や経験をもつ人材、企業等の協力により、平日の放課後や土曜日ならではの豊かな体験活動や多様な学習機会を児童に提供します。地域コミュニティ協議会などの地域団体と連携・協働しながら、地域課題の解決を支援します。入学との連携を推進し、入学の人的・物的資源を積極的に活用することにより、市民のニーズにより広く対応したり、教職員研修の質を高めたりします。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

2.8

事業1		こどもふれあいスクール事業							
事業のねらいと概要		小学校PTAと教育委員会の共催により、週1～3回平日の放課後や土曜日の午前中に小学校の体育館や余剰教室などで、児童の自由遊びを基本にした「こどもふれあいスクール」を開催し、体験活動など様々な活動を実施します。また、放課後児童クラブと連携した取組を進めます。ふれあいスクールにおける体験活動や学習機会提供のための「ふれあいプログラム」を作成し、多様な活動を実施します。							
R6事業計画		当初予算額		26,403 千円		決算額 <td colspan="2">19,555 千円</td>		19,555 千円	
○ふれあいプログラムの整備と、各ふれあいスクールでの活用の推進 ○各校の運営の工夫を研修会や運営委員会で紹介									
指標1 こどもふれあいスクール平均児童参加率(%)								R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		9.4	13.6	13.7	13.8	13.9	4	116.0%	
進捗状況	13.4	10.3	11.4	10.6	13.1	15.2			
指標2 ふれあいプログラム活用校数								R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		5	38	39	40	41	2	75.0%	
進捗状況	35	6	4	25	40	30			
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	平均児童参加率については、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後、増加している。研修会での好事例紹介や実践研修会の内容を各ふれあいスクールが実施し、児童にとって安心安全な居場所として機能していることや、多様な体験活動を行うなどの魅力ある運営が要因と考えられる。ふれあいプログラム活用校数は、コロナ禍で落ち込んだが徐々に回復し、R6年度は、活用校数自体は30校となり指標目標を下回っているが、オリジナルの体験活動を企画・実践するふれあいスクールが10校あり、40校は体験的な活動を行っていた。 児童参加率の増加に伴い、ボランティアの数も増やしていかなければならないが、児童の増加率に伴ったボランティアの協力を得られなければ、安心安全な居場所の確保が難しくなっていく可能性がある。								
今後の方向性	運営主任や運営スタッフが、ふれあいスクールを安心して開催でき、児童にとっても安心安全で魅力的な居場所となるよう、引き続き、研修会を実施し、事業内容の充実や体験的な学習プログラムが行われるよう支援していく。ボランティアの確保については、大学生・中学生等の学生ボランティアの活用を積極的に行う。								

事業2		公民館と地域団体との協働事業							
事業のねらいと概要		様々な地域コミュニティ協議会と連携し、世代間交流や地域の絆づくりなどの協働事業を行うことによって、それぞれの地域課題の解決を支援していきます。							
R6事業計画		当初予算額		952 千円		決算額 <td colspan="2">664 千円</td>		664 千円	
○地域の交流を軸とした、シビックプライド醸成を図る事業の実施 ○地域課題解消への意識啓発及び、地域コミュニティ活動活性化に資する人材の発掘・育成									
指標1		公民館と連携事業を実施する地域コミュニティ協議会数						R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		35	58	59	60	61	2	155.9%	
進捗状況	56	36	38	31	34	53			
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題		R2年度からR5年度にかけて、コミュニティ協議会との連携団体数は40団体未満にとどまっていたが、R6年度は53団体となり、R1年度と同程度の水準まで回復した。連携事業数は117事業に達し、地域交流や人材育成に貢献した。また、公民館が地域に積極的に取り組むことで、地域における社会教育の推進に努めた。 コロナ禍で減少した連携の取組は徐々に回復の兆しが見られており、今後も公民館は、コミュニティ協議会等の地域団体と連携を図りながら、地域住民同士の交流の促進および地域課題の解決に向けた事業の推進に努める必要がある。							
今後の方向性		公民館は、コミュニティ協議会等の地域団体との連携促進で、地域住民の主体的な学びを地域活動へと反映させ、地域課題や現代的課題に対応し得る人材の発掘や育成に協力して、地域コミュニティの活性化を図る。							

事業3		図書館と教育機関・企業との連携協力							
事業のねらいと概要		教育機関や地域団体、地元企業等と連携・協力を進め、地域課題の解決や地域活動を担う人材を育成するための資料や情報を提供します。 ・教育・社会福祉施設のほか、地域活動団体や民営店舗等を含む団体への図書館資料の貸出（学校除く） ・新潟大学附属図書館・新潟県立図書館との配本ネットワークの実施							
R6事業計画		当初予算額		0 千円		決算額 <td colspan="2">0 千円</td>		0 千円	
○地域や企業への団体貸出利用の働きかけと本の提供 ○新潟大学附属図書館・新潟県立図書館との配本ネットワークによる利用者への迅速な本の提供									
指標1		図書館から学校以外の団体への貸出冊数						R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		72,000	72,000	72,000	72,000	72,000			
進捗状況	72,312	59,471	64,026	66,390	66,631	68,327	3	102.5%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	団体貸出について、各種団体のニーズに応じた貸出しを通して地域での課題解決や人材育成に役立つ資料を提供した。指標の団体貸出冊数は、目標値を達成できなかったが、R2年度以降、年々増加させることができています。 R6は放課後児童クラブに対し広報活動を行うなど、潜在的ユーザーへの働きかけを行った。新潟大学附属図書館・新潟県立図書館との配本ネットワーク機能を活かし、利用者への本の提供を迅速に行った。また、新潟大学からの協力依頼で「新大ブックフェア2024」に関する展示を市立図書館14館で行った。新潟大学附属図書館、県立図書館、新潟市立図書館で実施することにより、めぐるくん(3者の配本ネットワーク)のPRも実施した。今後も継続した働きかけや、さらに利用しやすいサービス改善が必要である。								
	企業や民間団体などへの団体貸出を行い、地域の身近な場所へ本を提供することにより読書環境の充実に努める。引き続き、SNSなどを活用した情報発信や各種団体への働きかけを行い、広報に努める。								
今後の方向性									

※デジタルメディアの普及に伴い、活字離れが進む中で、外部機関等との連携・協力により現状の貸出冊数を維持します。

事業4		教職員研修における大学との連携							
事業のねらいと概要		各種教職員研修に大学の教員を招聘することにより最新の知見を生かした質の高い研修を実施し、教職員の資質・能力の向上を図ります。							
R6事業計画		当初予算額		859 千円		決算額		849 千円	
○キャリアステージに関わる研修 ○教職員の専門性向上に関わる研修 など									
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題		R2年度から毎年、大学教員を招聘する研修講座の在り方を見直し、改善を図ってきた。成果は、講師である大学教員と研修の目的や内容について、事前に綿密な打ち合わせを行い、最新の知見を生かした質の高い研修となるよう運営方法を工夫したことと対話や演習を取り入れた研修を大学教員と連携して行ったことである。課題は、教職員の資質・能力の向上を図るために、大学教員との連携を強化し、さらに質の高い研修を実施できるより工夫していく必要があるということである。 中でも、R6年度の成果は、大学教員との事前打ち合わせで研修目的、内容、方法について綿密に行い、講座運営に生かしたことである。課題は、綿密な打ち合わせが重要ではあるが、限られた時間の中で有意義で効率的な打ち合わせを行うための工夫が必要であるということである。							
今後の方向性		大学教員を招聘した講座を今後も確実に行っていく。また、現代を取り巻く課題や最新の知見を生かした質の高い研修を実施する。							

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

市民の生涯にわたる多様な学習活動や地域課題等の解決を支援するため、生涯学習センターや図書館の機能と様々な媒体を有効に活用しながら、情報を積極的に発信するとともに、情報や資料等の収集・提供と相談体制の充実を図ります。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

2.0

事業1		学習情報提供事業	
事業のねらいと概要			
市民の生涯にわたる多様な学習活動や地域課題等の解決を支援するため、本市で実施する多様な講座や市民活動機会の情報を整理し、ホームページ等を通じて情報提供に努めます。			
R6事業計画	当初予算額	0千円	決算額
			0千円
○学習情報の収集・整理とホームページ等による情報発信			
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性			
成果と課題	R2年度からR6年度にかけては、ホームページやSNS (Facebook・LINE・X) 等を活用した情報発信に取り組み、地域におけるデジタル化を進めることで、情報の共有および住民とのつながりの強化を図った。生涯学習に関する情報を近隣の6市町村と共有し、「研修・講演・講師紹介ガイド」に登録された人材の周知活動の取組も推進した。 R6年度においては、これまでPDF形式で提供していた「研修・講演・講師紹介ガイド」を、より検索しやすいデジタルコンテンツへと刷新し、利用者が講師を選定し報告するまでの一連の作業の利便性を向上させることで、負担の軽減を図った。ホームページやSNS等を活用した情報発信をさらに充実させることが課題である。		
今後の方向性	デジタル技術を活用した仕組みの改善を継続的に進め、住民との双方向のコミュニケーションの強化を図る。近隣市町村との連携を深め、人的資源の広域的な活用を進め、地域全体で学びの機会と人材の活躍の場を広げる。		

事業2		図書館サービス事業							
事業のねらいと概要									
図書館情報システムやホームページを運用するとともに、配本車の運行により、図書館資料を効率的に市民に提供します。また、国立国会図書館の図書館向けデジタル資料送信サービスの提供や、新潟市のデジタルアーカイブ公開など、インターネットを活用した情報を提供します。									
R6事業計画		当初予算額		111,385 千円			決算額		110,777 千円
○図書館システムやホームページを運用及び、配本車を運行した図書館資料の提供									
○国立国会図書館の図書館向けデジタル資料送信サービスの提供や新潟市の郷土資料をデジタルアーカイブで公開									
○電子図書館事業を実施									
指標1		市民一人当たりの図書館資料(雑誌、AVを含む)貸出点数					R6評価		
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		5.4	5.4	5.4	5.4	5.4			
進捗状況	5.4	4.5	4.8	4.8	4.8	4.7	2	97.9%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題	R2、R3年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休館や対面サービスの縮小など、図書館サービスの変更を強いられたが、インターネットを活用した情報提供、貸出冊数・期間の拡大を行うなどサービスを維持した。さらに、R4年3月には電子図書館を開始し、また、児童生徒の学習タブレット端末での読書・学習支援を行い、非来館サービスの充実に努めた。								
	特にR6年度は、電子図書館事業の利用促進のため、PR動画を作成し、6月には育声資料の電子コンテンツを購入し充実を図った。さらに、非来館型での読書サービスを提供するため、R7年2月にオンラインでの利用申請を開始した。様々な環境や市民のライフスタイルに応じたサービスを提供してきたが、利用拡大につながっていないのが現状である。								
今後の方向性	図書館間の配本車運行を維持し、図書館資料を効率的に市民に提供する。次期図書館情報システムの導入及び運用と並行し、ホームページの刷新を検討する。さらに、デジタルを活用した非来館サービスの充実や未登録者への働きかけを行う。								

※デジタルメディアの普及に伴い、活字離れが進む中、様々な情報に対するニーズに応えながら、現状の貸出点数を維持します。

◆推進委員からの意見・要望等

◆施策概要

参加者のニーズや社会の動向を踏まえた工夫・改善を通して、教育関係職員が自ら学び続け、高い専門性と豊かな人間性を
 伸ばせるような研修プログラムを継続して実施します。

◆施策を構成する事業

事業の進捗平均

3.8

事業1		教育関係職員の研修プログラムの一層の充実							
事業のねらいと概要		新潟市教職員の資質向上に関する指標に基づいて資質、指導力の向上を目指します。教育の動向や学校現場のニーズ、それぞれの職員のキャリアステージに応じた研修体系を構築するとともに、マンツーマン指導を核とした参加型の研修講座を実施します。また、新潟市マイスターを活用して研修の一層の充実を図ります。							
R6事業計画		当初予算額		5,216 千円		決算額 <td colspan="2">4,130 千円</td>		4,130 千円	
○キャリアステージに関わる研修 ○教職員の専門性向上に関わる研修 など									
指標1		各研修講座における参加者の満足度(%)						R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		90	90	90	90	90			
進捗状況	89	79.4	88.5	86.6	82.8	86.2	3	104.1%	
指標2		各研修講座アンケートで「今後に生かすことができる」と回答した参加者の割合(%)						R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		90	90	90	90	90			
進捗状況	89	90.5	93	93	89.4	90.8	4	101.6%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題		各研修講座における満足度、活用度とも高い目標を掲げて、5年間取り組んだ。成果は、教育の動向や学校現場のニーズ、それぞれの教職員のキャリアステージに応じた新潟市教職員の研修体系の大枠を構築したことである。また、グループワークや演習などを十分に取入れた研修を行い高い評価を得たことや、マイスターの活用によって研修が充実したことである。課題は、R8年度に完成する新潟市教職員の研修体系に向けて、研修内容を精査していくことである。 中でもR6年度は、教職員が主体的に学ぶために、演習を十分に取入れた研修を実施したが、R6年度から運用が始まった研修履歴システムPlantを、今後学校がより使い易いものにしていくという課題がある。							
今後の方向性		教職員の資質、指導力の向上のために、対話やリフレクションを意識しながら更に研修の質を高めていく。また、R8年度に完成する新潟市教職員の研修体系の構築に向けて、研修内容を精査していく。さらに、研修履歴システムPlantの運用を確実に進めていく。							

※各研修講座における受講者の満足度と活用度は4段階評価のAを対象とし、この数値を維持していくことを目指します。

事業2		「学・社・民の融合」に関する研修の推進							
事業のねらいと概要		「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」を一層推進するため、地域教育コーディネーターやふれあいスクール運営主任等の実践力を向上させるための研修や、生涯学習・社会教育関係職員の専門的知識と技術を高める研修を開催します。							
R6事業計画		当初予算額		0 千円		決算額		0 千円	
○「パートナーシップ事業研修会」「ふれあいスクール事業研修会」の充実									
指標1		地域と学校パートナーシップ事業研修会参加者理解度(%)						R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		95	95	95	95	95			
進捗状況	95	96	99	98	98	95	4	96.9%	
指標2		こどもふれあいスクール研修会参加者理解度(%)						R6評価	
I 型	現状	R2	R3	R4	R5	R6	進捗	前年度比	
指標目標		98	98	98	98	98			
進捗状況	98	98.5	-	98.9	99.0	98.2	4	99.2%	
R2～R6の成果と課題及び今後の方向性									
成果と課題		地域と学校パートナーシップ事業とこどもふれあいスクールに係る研修では、参加者の理解度が高く、高評価を得ている。R6年度では、地域教育コーディネーターと地域連携担当職員対象の「地域と学校パートナーシップ事業研修会」において、「自分の役割や事業の方向性を理解できた」と回答した割合は95%であった。また、7月に実施した新任校長対象の研修会では、参加者全員から「研修内容を理解できた」という肯定的な回答を得た。運営主任対象の「こどもふれあいスクール研修会」においては、「研修内容を理解できた」と回答した割合は98.2%であった。放課後児童クラブ支援員の参加者数が年々増加しており、連携や共通理解をする場となっている。コミュニティ・スクールと地域と学校パートナーシップ事業の一体的推進に焦点を当てた研修の企画や、ふれあいスクールの効果的な運営を支援していくことが課題である。							
		事業通信等でコミュニティ・スクールと地域と学校パートナーシップ事業を一体的に推進している学校の好事例を紹介するとともに、区教育支援センターと連携して指導助言を行う。							
今後の方向性		担当指導主事によるふれあいスクール参観時に運営主任の相談に乗ることはもちろん、他校の参考となる取組について、研修会や通信の発行を通して情報提供していく。							

※現在、高評価を得ている研修を、今後も内容の工夫・改善をすることで維持します。

◆推進委員からの意見・要望等